

令和7年度学校評価(児童・保護者・職員自己評価アンケート)の結果について

学校教育目標 「豊かな個性をもち、たくましく生きる子どもの育成」 ～自分を信じ 未来を創造する 東っ子～

＜表中の数字について＞

とてもそう思う→4点 まあそう思う→3点 あまりそう思わない→2点 全くそう思わない→1点として、全体の回答の平均値を表したものです。

児童は、自分自身のについて振り返り回答しています。

保護者の皆様は、自分のお子さんの姿を見て回答しています。

職員は、自分自身の取り組みを振り返り回答しています。

(昨年度、職員には学校の子どもの姿を見て回答していましたが、今年度は、自分自身の取り組みを振り返り回答しています。)

＜I かんがえる子＞

評価項目	児童			保護者			職員		
	R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7
① 学校の勉強は楽しい	3.2	3.1	3.2	2.9	3.0	2.9	3.4	3.4	3.5
② 学校の勉強はよくわかる	3.3	3.2	3.3	3.0	3.0	3.0	3.5	3.5	3.5
③ 目標やめあてに向かって、粘り強く頑張っていますか	3.3	3.2	3.2	2.8	2.9	3.0	3.1	3.4	3.3

＜I かんがえる子＞

いずれの項目においても概ね肯定的な評価を得られていることが確認できました。また、上学年の方が下学年よりも同等以上の評価傾向を示している点は注目すべき成果であり、学習に対する主体的な取組が学年の進行に応じて育っていることの表れと捉えています。

③「粘り強さ」に関しても3.2(児童)・3.0(保護者)・3.3(職員)と、3.0以上の評価を得ていることから、目標意識をもった授業改善や単元構想の工夫、振り返り活動の定着が一定の成果として結びついていると考えています。特に職員の評価が高い点は、教員自身が意図をもって指導改善を進めていることの反映であり、校内研究の方向性が妥当であることを示していると思われます。

一方で、保護者評価がやや低い傾向にある点への対応は、今後の課題として挙げられます。授業での学習過程や児童の努力の姿、学習上の成長を家庭に伝える工夫を進めることで、家庭との協働体制をさらに強化していく必要があります。

総じて、今年度の結果は、主体的に考え取り組む児童の育成に向かう学校の指導改善の成果が着実に表れていると評価できると考えます。今後も、児童が「わかる」「できる」を実感し、「学ぶ楽しさ」を積み重ねられる授業づくりを継続し、さらなる学びの質向上を図って参ります。

＜II 思いやりのある子＞

評価項目	児童			保護者			職員		
	R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7
① やさしい声かけなど、友達を大切にしている	3.6	3.6	3.4	3.4	3.4	3.5	3.6	3.0	3.6
② 学級でよい友達関係ができている	3.2	3.4	3.4	3.2	3.4	3.3	3.3	3.2	3.4
③ 友達となかよく力を合わせて生活している	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3	3.4	3.1	3.2	3.3

＜II 思いやりのある子＞

いずれの項目においても高い評価を得ることができました。特に①の項目では、児童・保護者・職員すべての観点から高い肯定的評価となっており、道徳教育や学級経営、日々の温かい人間関係づくりの取組が成果として表れていると考えています。

また、3項目とも児童・保護者・職員の評価がほぼ一致している点は、学校全体として人間関係づくりに対する共通理解と共通の価値観が浸透していることの現れであり、本校の大きな強みであると考えます。特に、友達と協働して生活する力に関する項目で平均3.4以上の評価を得られたことは、日頃の話合い活動や係・委員会活動、異学年での交流活動など、学校生活全体の積み重ねが有効に機能している裏付けと言えるでしょう。

一方で、数値としては高い水準であるものの、すべての児童が安心して人間関係を築けているかという視点は引き続き重要であります。特に、少数ではあるが悩みを抱える児童への丁寧な支援、早期発見・早期対応、未然防止の観点から、保護者と連携しながら個別の状況に応じた関わりを継続することが求められます。

総じて、今年度の結果は、互いを尊重し、思いやりをもって関わる児童の育成が順調に進んでいることを示していると考えます。今後も道徳科の授業改善や学級経営の工夫、学年・学校全体での温かい人間関係づくりをさらに推進し、「誰もが安心して過ごせる学級・学校づくり」を目指して参ります。

＜III たくましい子＞

評価項目	児童			保護者			職員		
	R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7
① 進んで体力づくりに取り組んでいる	3.2	3.2	3.2	2.8	2.9	3.0	2.7	2.8	3.1
② 早寝・早起き・朝ご飯など健康や生活習慣に気をつけて生活している	3.0	3.1	3.1	3.0	3.1	3.1	3.0	3.1	3.4
③ きまりを守り、自分でよいことか悪いことかを判断して行動している	3.3	3.4	3.2	3.3	3.4	3.4	2.9	3.1	3.4

＜III たくましい子＞

すべての項目で概ね肯定的な評価を得ることができました。特に③では保護者および職員の評価が高く、学校生活の中で基本的な生活習慣や規範意識が育っていることが確認できました。

一方で、①「体力づくりへの自主的な取り組み」に関しては、児童・保護者・職員ともに本領域内では最も平均値が低く、今後の課題として注視する必要があります。体力向上については、全国的にも改善が求められている課題であり、引き続き運動の楽しさを実感できる活動の充実や、継続して取り組める環境づくりが重要となります。昨年度の考察にもあるように、楽しく体を動かす活動と、できるようになる達成感の両立を図りながら、日々の体育授業や休み時間の環境、運動習慣づくりについて学校全体での工夫を進めていきたいと考えます。

また、②の生活習慣に関する項目では、職員の評価が高かった一方、児童・保護者の評価がやや低かったことから、学校として働きかけているという実感はある一方で、その指導が十分に届いていない可能性がうかがえます。生活習慣の改善には家庭との連携が欠かせず、学校での保健指導・食育指導の質や具体性をさらに高める必要があります。今後は、児童が実践しやすい形での働きかけや情報提供を工夫し、家庭と協力して生活習慣の定着を図っていきたいと考えます。

総じて、今年度の結果は、心身の健やかな成長に向けた指導が概ね着実に成果を上げていることを示しています。今後も、「心と体のたくましさ」を柱に、体力向上・生活習慣の定着・規範意識の育成をバランスよく進め、主体的に健康な生活を選択・行動できる児童の育成を目指して参ります。

<V 合言葉 み・そ・あ・じ>

評価項目		R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7
①	身(み)だしなみなどに気をつけて生活している	3.1	3.1	3.3	3.1	3.1	3.2	3.4	3.1	3.3
②	部屋の整頓や(そ)うじなど、自分できちんとしている	2.4	2.4	3.3	2.4	2.4	2.6	3.1	3.0	3.2
③	元気な(あ)いさつができている	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.0	3.0	3.3
④	時間(じかん)をまもって、きそく正しい生活をしている	2.9	3.0	3.3	2.9	3.0	3.0	3.1	3.1	3.2

<IV 合言葉 み・そ・あ・じ>

概ね良好な結果を得ることができました。特に①と③は児童・保護者・職員の評価が近く、学校生活の中で生活習慣や挨拶の定着が進んでいることがうかがえます。

一方で、②「整頓や掃除など自分でできているか」については、保護者の評価が2.6と他項目と比べて低く、学校と家庭での認識に差が見られました。学校では日常的に清掃活動や係活動で責任ある行動をとっている姿が見られますが、家庭では整理整頓や掃除の面で課題を感じている可能性があります。今後は、学校と家庭で共通の視点を持つて取組の工夫や情報発信の充実が求められます。

③の「元気なあいさつ」については、昨年度に引き続き高い評価が得られました。各種集会や日々の声掛け、校内でのあいさつ運動など、継続的な取り組みが成果として表れていると考えられます。保護者からの評価も高く、学校での努力が家庭にも伝わっている点は大変意義深いことです。今後も、挨拶を学校の重点として継続的に取り組み、児童が主体的に挨拶を交わす文化のさらなる定着を目指して参ります。

④の「時間を守って生活している」では、児童の評価と保護者の評価に差が見られ、生活の中での自覚と実態に課題がある可能性が示唆されました。生活リズムは学力・体力・心の安定とも密接に関係するため、校内での指導に加え、家庭との連携による生活習慣改善の支援がより重要となります。

総じて、今年度の結果は、基本的生活習慣の定着に向けた取組が概ね成果を上げていることを示しています。一方で、整理整頓や掃除、生活リズムの面では、家庭と連携しながら支援を強化する課題が明確となりました。来年度に向けては、「できる喜び」「任される経験」「継続する力」を育てる工夫を引き続き進め、より主体的に生活をつくる児童の育成を目指して参ります。

<V 学校の重点>

評価項目		R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7
①	楽しく学校生活を送っている	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	3.6	3.5
②	学校では、安全・安心に過ごすことができている	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.5	3.4	3.7	3.5
③	先生はあなたの頑張ったことをほめてくれる	3.3	3.3	3.5						
④	自分のよいところに気づいている。	2.9	2.8	3.2	2.9	2.8	3.1			

<V 学校の重点>

児童・保護者・職員のいずれも3.4~3.7と高い評価となり、本校の教育活動が充実したものであると捉えられていることがわかります。特に③については職員から3.7と最も高い数値となり、日頃から子どもたちの成長を丁寧に認め、励ます指導である「わかった・できたを認め、伸ばそう」が意識的に行われている成果であると考えます。

④「自分の良いところに気づいている」については、児童2.8→3.2、保護者2.8→3.1と昨年度より大きく数値が向上しました。これは、質問内容を「自分が好きですか」から具体的にイメージしやすい表現に変更したことと、子どもたち自身の自己肯定感をより適切に捉えることができたことが影響していると考えられます。また、今年度も年間を通して取組を行ってきた「優しい声掛けと挨拶」ができていますかと、各種集会等で1年を通して話をしてきたことが、子どもたち一人ひとりが自分の価値に気付くことにつながったものと思われます。

今後も、温かな人間関係づくりや互いを認め合う活動を中心に据え、特に自己肯定感をさらに高める教育活動を継続していくことで、児童の主体性と成長意欲をさらに伸ばして参ります。

まとめ

本年度の学校評価アンケートでは、I~Vの各領域において、児童・保護者・職員のいずれからも概ね良好な評価をいただきました。特に、日常の学校生活や安全・安心の確保、教職員の児童への関わりについて高い評価が得られたことは、これまで取り組んできた教育活動が着実に実を結んでいるものと受け止めています。また、質問内容の改善により、児童の自己肯定感に関する実態をより的確に把握できたことは、今後の指導の方向性を考える上で大きな成果となりました。

一方で、家庭での生活習慣の定着や自己理解を深めていくための取り組みなど、引き続き継続的に働きかけていく必要のある課題も見えてまいりました。これらの結果を真摯に受け止め、学校として改善すべき点は具体的な指導や教育活動へ反映し、よりよい学校づくりにつなげてまいりたいと考えております。

今回記載いたしました内容は、アンケート結果の分析の一部でございます。児童の回答につきましては、学級・学年ごとの傾向を丁寧に見取り、日々の指導改善に生かしてまいります。また、保護者の皆様から寄せられた思いやご意見につきましては、来年度の教育課程の編成や学校運営の改善に反映させていただきたいと存じます。今後も、家庭と学校が協力し合い、子どもたちの健やかな成長をともに支えていけるよう取り組みを進めて参ります。

<I かんがえる子>

- ・先生がわかりやすく、そして集団で学ぶことによって学習できていると思う。
- ・勉強は好きみたいだが、当然だが好きな教科、苦手な教科はあり、差はあると思う。
- ・授業によりますが、算数は理解していても応用が利かなかつたり、テストでうまくいかなかつたり、更にはそれを悔しいとも思わない様で、出来るようにしたいという気持ちが無い様子です。
- ・学習量をもっと増やしてほしい。
- ・学校に対して不満はありません。うちの子は勉強に中々興味を持ってくれませんが興味のある分野に対しては大人顔負けの集中力をもっておりますので、勉強に熱が入るのは時間の問題かなと思っております。「成績」だけ見ると良いとは言えませんが、それは学校の授業に原因があるとは思っておりません。
- ・集中力がなく、勉強にまとまって向き合うことが難しいと感じている。
- ・考える活動を通して、普段から、何事にも考えを巡らせるクセがつくことが大切だと思います。
- ・勉強は嫌いではないが、特に得意(好き)な教科があるわけでもなく自分で興味を持って取り組んでいるわけではなさそう。
- ・好きな教科は頑張っていると思う。
- ・苦手なものはわからないと諦めてしまう。

<II 思いやりのある子>

- ・優しい声かけをしたくても恥ずかしがり屋でできないと思う。
- ・同じ学級での友達関係がよくわかりませんが、毎日楽しく通っています。
- ・「遊び」の限度が怪しいところが度々あります。とても思いやりがあるのですが、友達と遊ぶ楽しさでタガが外れるところがあるのでここも時間の問題かと思っております。
- ・聞いた話によると友達関係はうまくいっている。実際どうなんだろうかと気になっています。
- ・学校自体が楽しくないと言っており、友達関係についての悩みは聞かないが、学校での取り組みについてはあまり積極的ではないので、友達との協力関係が成り立っているかはわからない。
- ・好ましくない発言をして揉めることもあるようなので、そのあたりはまだまだ注意が必要であると感じている。
- ・誰とも隔たりなく仲良くできていて、様々な人間関係から多くのことを学べていてありがとうございます。
- ・1人で静かに過ごすのを好むので自分から関わりに行くことは少ないと感じる。周りの友人に助けられている部分が大きい。
- ・性格の合わない子がいるらしく、たまたま意見の食い違い等で落ち込んで帰ることがある。
- ・お友達の話をよく聞くのと遊ぶ約束をしているのを考えると、交友関係は良好と考える。ケンカしたという話は聞いたことがないため。
- ・家庭ではいじめや暴力は絶対にダメだとうるさく伝えていますが、なかなか子供達の中では理解してないようです。言葉遣いにも気をつけてはいますが、今の子供たちはYoutubuで物事の善悪を判断しているように思えます。ダメなことはダメだと理解できる子供に育てていきたいと思います。

<III たくましい子>

- ・ゲームや携帯電話のことになると、きまりを守ることができない。
- ・早寝早起きが苦手なのですが、睡眠時間の目安を知りたいです。
- ・外で身体を動かすのがとても好きですが、休日は夜更かしがちです。
- ・スナック菓子、インスタントラーメンを食事の代わりに食べているので困る。
- ・朝の遅刻が多い。学校自体が楽しくないと思っててしまっていることで、登校時間が近くなると落ち着きが無くなったり、腹痛を訴えたり、精神的不安定さが目立つことが増えてきている。そのあたり、担任が感じ取ってくれているかは疑問に感じている。
- ・就寝時間は日によって変化があり、なかなか眠らないことが多く、朝も起きられないことが多い。友達と公園で遊んでいる時に、友達がよくない危険なことをしていると、加勢することはないようだが、巻き込まれてびしょぬれになるなどして帰宅することもあり、本人にも十分に説明して注意を促している。
- ・正義感が強すぎる点は難点ですが、よくご指導いただいています。
- ・良いこと悪いことの判断について、はっきりと善悪が判断できているとは思わない。周りに影響される部分が大きい。
- ・善悪の判断はできない部分が多いと感じる。イライラすると余計に。
- ・善悪の判断は比較的出来ていると思うが、周りの影響を受けやすい。楽しくなるとダメなことだとわかつていてもやってしまう傾向。

<IV 合言葉 み・そ・あ・じ>

- ・学校ではできているのかもしれないが、それが家でもできるかと言えば別の話だと思う。
- ・時間を守るのが苦手なので、家では口うるさく注意しています。
- ・学校では時間で動いていると思いますが、家ではルーズで、スマホいじり優先で、しつこく言わないとやるべきことをやらない。
- ・習い事などで帰宅が遅い日もあり、規則正しい生活が毎日できていないのが現状。
- ・早寝早起きが乱れているので、時間を守ることは難しい状況。
- ・時間は守ますが、前の日と同じ服を着たり、プリントの整理などがされないことが多いので、自分から進んで整理できると良いです。

多くのご意見ありがとうございました。質問等につきまして学校や担任に確認したい場合は、直接ご連絡いただけますと助かります。

※無記名によるアンケート回答のため、直接お答えすることができません。